

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について
(予報第1号(5月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病害虫発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病害虫発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に発生に注意》

- 【水稲】 ジャンボタニシ
- 【もも】 せん孔細菌病
- 【バラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ
- 【みかん】 アブラムシ類
- 【野菜・花き類】 アブラムシ類

《5月の予報概要》

A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)(発生に注意)				

B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			灰色かび病		
			ハスモンヨトウ		
			クワゴマダラヒトリ		
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			アブラムシ類		
いちじく			アザミウマ類		

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
			灰色かび病		
			うどんこ病		
			アザミウマ類		

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト		葉かび病・ すすかび病			
			灰色かび病 コナジラミ類		
たまねぎ			べと病		
			ネギアザミウマ		

D 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・花き類			アブラムシ類		

《(参考)5月の気象予報》

気温	低い (20%)	平年並 (40%)	高い (40%)
降水量	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)

(大阪管区气象台4月28日発表)

A 水稲

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリンゴ ガイ)	発生に注意	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 ・用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網（編目5mm以下）を設置する。 ・田植直後から約20日後までの食害による被害が大きい。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
灰色かび病	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでの巡回調査では、発生は平年並でほとんど見られなかった。 ・5月の降雨量は平年並～多いと予想されている。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害花穂・被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
ハスモンヨトウ	並～ やや多い	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでの巡回調査では、発生は平年並でほとんど見られなかった。 ・フェロモントラップ調査における発生はやや多かった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が葉や新芽を食い荒らす。卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられる。卵からかえった幼虫が集団で葉を食べるので、卵塊や若齢幼虫の集団を見つけ出して葉ごと除去する。

クワゴマダラ ヒトリ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでの巡回調査では、発生は平年並でほとんど見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウ等に産卵する。 ・主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月以降に幼虫が移動し、ブドウの新梢や葉を食害する。 ・初期に新梢の生長点に加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
---------------	---	---

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・昨年7月に葉での発生がやや多かった。 ・近年、葉での発生が多い傾向が続いている。 ・5月の降雨量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枝に形成される病斑の除去は、感染拡大を防ぐうえで非常に重要である。開花後に春型枝病斑を見つけた場合は、早急に、健全部を含めて大きめに取り除き、園外で適切に処分する。 ・風当たりの強い園地では、防風ネットを設置する等の対策を行う。
シンクイムシ類	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年9月のフェロモントラップ調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 ・巡回調査では、発生は平年並でほとんど見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。 ・被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤ カミキリ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部地域において発生が確認されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 ・成虫が発生する前の5月下旬までに4mm目合いネットを2重、もしくは0.4mm目合いネットを1重に樹幹に巻き付け、羽化して樹から脱出した成虫を閉じ込め、他の樹への分散を防ぐ。

4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
アブラムシ類	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並でほとんど見られなかった。 ・4月中旬の黄色水盤調査における発生はやや多かった。 ・5月の気温は平年並～高いと予想されている。

5 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
アザミウマ類	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネギアザミウマの発生は平年並であった。 ・5月の気温は平年並～高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマ等がいちじくを加害する。 ・果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。 ・ほ場の周囲を 0.8mm 目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。 ・乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでの巡回調査では、発生は平年並でほとんど見られなかった。 ・5月の降雨量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（アミスター、ストロビー、シグナム）、SDHI 剤（アフエット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
灰色かび病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでの巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の降雨量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。 ・20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。 ・QoI 剤（シグナム）、SDHI 剤（アフエット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

うどんこ病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでの巡回調査では、発生は平年並でほとんど見られなかった。 ・5月の降雨量は平年並～多い、日照時間は少ない～平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。 ・QoI 剤（アミスター、ストロビー）、SDHI 剤（アフェット）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は少なかった。 ・5月の気温は平年並～高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培等を行う。

2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでの巡回調査では、発生は平年より少なくほとんど見られなかった。 ・5月の降雨量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。 ・すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。
灰色かび病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並でほとんど見られなかった。 ・5月の降雨量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行う。 ・茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナジラミ類	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでの巡回調査では、発生は平年並でほとんど見られなかった。 ・5月の気温は平年並～高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸汁による果実の着色不良のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。 ・ハウス栽培では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・トマト黄化葉巻病（TYLCV）の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

3 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・5月の降雨量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。 ・抜き取った発病株は、次年度の感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、処分する。
ネギアザミウマ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の気温は平年並～高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・4月中旬の黄色水盤調査における発生はやや多かった。 ・5月の気温は平年並～高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailservicemusikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)